

松下幸之助が“掃除の大切さ”を説いたワケ

整理整頓で得られる経営的な効用

整理・整頓・清掃の「3S」

日本の優れた企業には、経営者や従業員が自ら掃除や整理整頓に取り組んでいるところが少なくありません。本田総一郎、松下幸之助といった名経営者も、掃除や整理整頓を大事にしてきました。掃除には、どのような経営上の効果があるのでしょうか。

日本の企業の歴史を振り返ると経営課題を掃除によって乗り越えてきたことがわかります。今も、製造業を中心に、整理・整頓・清掃などの5Sに取り組む企業が多くあります。5Sという言葉が多く用いられるようになったのは、1970年代後半から80年代前半にかけてです。その背景には、当時、大手企業を中心に取り組み始めたTPM（Total Productive Maintenance）があります。

全員参加で生産保全に取り組む活動ですが、その基礎として掃除や整理整頓を位置づけ、5Sと呼んで取り組むようになったのです。当時、欧米企業と熾烈な競争をしていた日本企業は、生産性向上のために掃除や整理整頓に力を入れました。

60年代には、すでに3Sという言葉が登場していました。この頃は労働災害が頻発していた時期で、職場の安全性を高めるために整理・整頓・清掃の3Sに力を入れたわけです。

時代を遡ると、20年代前半から30年代前半にかけても、掃除や整理整頓に力を入れていたようです。当時は関東大震災や昭和恐慌によって国全体が困難な状況にありました。そこで節約のために「無駄なし運動」「無駄なし習慣」といった言葉で、企業の枠を超えて取り組みました。

日本企業が清掃や整理整頓に取り組むようになった端緒は、1900年前後です。この頃、多数の労働者を集めた工場が操業するようになりました。当時盛んだった繊維工場で働くのは、「女工」と呼ばれた数多くの女性たちでした。多くは親の借金の肩代わりに連れてこられ、長時間、低賃金の労働を強いられました。当時の資料を読むと、女工たちのおしゃべりや怠業が絶え間なく、仕方なく長時間労働にせざるをえなかったことが記されています。

また、男子の職場でも、同様に規律や勤勉性の欠如が問題になっていたようです。そこで、規律や勤勉性を高めるために導入されたのが、掃除や整理整頓でした。

なぜかという、日本社会では、昔から掃除や整理整頓を大切にする文化的な背景があったからです。

理由の1つは宗教的なもので、神社に参詣する前に身を清める風習があります。もう1つは環境的な理由です。日本は蒸し暑い気候で、また小さな国土に密集して住んでいるため、身ざれいにして、整理整頓せざるをえず、家庭でもそういう躰がされてきました。こうした文化を背景に、日本企業は経営危機に直面するたびに、全員で掃除や整理整頓をすることから、さまざまな問題解決に取り組んできたのです。

では、掃除や整理整頓によって得られる経営的な効用とは、どのようなもののでしょうか。

大別すると、掃除から得られる直接的効用と、掃除をする人間による間接的効用があります。

直接的効用として、「職場環境の安全衛生や公衆衛生の向上」「効率の向上およびコストの削減」、間接的効用としては、「機械や備品の耐用年数の向上」「従業員のモチベーションやモラルの向上」「チームワークや連帯感の向上」「売上の向上」が挙げられます。

東北から元気発進！！ワクワク“夢実現”プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します

企業における掃除や整理整頓には、外部に委託する外注型と、自社社員による自前型の2つがあります。それぞれの企業グループに分けて掃除の効用に関するアンケートの回答を比較してみました。すると、直接的効用については、ほとんど違いはありませんでした。ところが間接的効用については、自前型グループの方が圧倒的に高い比率で「効用あり」と回答していました。

なぜ、自前で掃除をしたほうが効用があるのでしょうか。機械や備品の耐用年数が向上するのは、自分達で掃除をすると愛着が湧き、大切に使うようになるからです。その延長で、職場や会社への愛着も高まり、同僚と一緒に掃除をすることで、チームワークも高まり、職場の雰囲気よくなります。さらに、従業員の清掃する姿に感動して、新たな顧客が増え、売上の向上につながることもあります。

この結果を踏まえると、日本企業は、掃除によって得られる直接的効用よりも、掃除をする人間によってもたらされる間接的効用を大切にすることによって成長してきたことがわかります。

何か問題が起きたときに、全員で掃除をすることによって、解決のための何らかの手がかりが見えてくるのです。実際に掃除を導入すると、その会社の本質的な課題が浮き彫りになるケースが多く見られます。今日のように環境変化が激しい時代こそ、掃除が有効なのかもしれません。

日本大学経済学部教授 大森 信 PRESIDENT Online より

沢山の方を笑顔にしてくれた ”カーネーション”に感謝

「カーネーションのお花が沢山あるので、大切に育ててくれる方に届けて欲しい」とうれしいお話を頂き、100鉢も届けていただきました。連絡を頂いてから1時間足らずで、綺麗なお花と齋藤園芸・齋藤社長様の想いと共に。

社員全員が1鉢ずつ、1週間遅れの母の日のプレゼントと用に。男性もお花をもらおうと喜んだと意外な発見。

後は普段お世話になっている方へプレゼントとさせて頂きました。皆さん、とても素敵な笑顔で写真を撮らせてくださいました。ありがとうございます。

齋藤園芸さんは、今年5月に私たちの故郷”浪江町”にもカーネーションを寄付してくださっています。浪江町の復興への取組みや現状を知り「力になりたい」と思い、「花を贈ることで復興の後押しになれば」と贈っていただきました。

自分の仕事を通して浪江町や周辺の被災地に貢献できることがあれば、これからも応援していきたいと。熱い思いに感動しつつ、沢山の勇気と笑顔頂きました。齋藤社長、ありがとうございます。



東北から元気発進！！ワクワク“夢実現”プロジェクト



仕事と生活調和推進企業として
ワーク・ライフ・バランスの実現を応援します